

Episode 4

SHOOTING-2

「付き合つていたからこそ、こんなよく分からぬ距離感なんだろうなと」

シユ 続いてすごい顔のマユミですが…
宮原 彼女の全てをこの写真で表現しているというか。

CD 発表会でお会いした時は、意外と普通だったんでビックリしました。

岡戸 マユミ役を演じた旭レナさんは、ヨーイ、ハイ！でスイッチが入るんですね。

シユ 稽古の時からあんな調子だったんですか？

岡戸 台本を持ってましたので、ジェスチャーは封印していました。演劇サークル時代も舞台に出てもらっていたので、こういう役柄を与えておけば、自動的にこういうことをやり始めるだろうって思ってました。

シユ 似たような役を演じたことがあったんですか？

岡戸 主人公に対して厄介な…主人公が目的を遂げるために厄介な存在ですね。そういう役回りが非常に合うんです。

シユ 何でそこまでカズヒデをディスってるんだろうって思ってました。

岡戸 マユミはただ、面白い障害になるように作りました。アプローチした女性は列挙しちゃうわ、アスリのスクショも持っているわとか。

宮原 意図的にディスってるよりは、デリカシーが欠けているというか、ガラスの破片をカズヒデにフッ刺していくような。付き合っていたからこそ、こんなよく分からぬ距離感なんだろなというのもあります。

シユ オチのセリフ直前、カズヒデがマジメに答えるシーンについて詳しく。

宮原 オチのセリフで急下降させるじゃないですか。だから、そこまでは上昇させていくというか、カズヒデがアイのことを意識して…後ろにアイがいると分かっていて、「僕、こういうこと言うんですよ」的な。その積み上げてきたモノが、マユミのフッ刺した一言で崩れ落ちて行く…それをやりたかったんです。

岡戸 面白いですよね。カズヒデはアイちゃんのことを気にしていて、アイちゃんと付き合いたいから遊びはいいんだっていうけど、言われたマユミとしては、私とはなんで付き合ってたのって。自然なリアクションのはずなんですけど、それがカズヒデとアイちゃんとの仲には重要な意味を持ってくると。付き合ってたんかいと（笑）。

シユ まさに、リアルとSNSが交わるシーンですね。

岡戸 …しかし、すごい顔だ（笑）

宮原 この顔、すごいよね（笑）



シユ アイ役を演じた江藤菜美子さんも、演劇サークル時代は役者を？
岡戸 彼女は、フライヤー製作などをしていました。ただ、僕が監督した映像作品に出てもらったことがあったんです。演劇の経験は無いけど、映像だと自然な感じでいいなって、今回出てみませんかって説きました。

シユ アイの登場シーン…可愛いです。

岡戸 アイちゃん可愛い。
宮原 めちゃめちゃ映えて可愛いですね。
シユ アイはアイで、よくバス待合所に居続けたなって思いました。
CD まあ、アイってそこだよね。

シユ カズヒデを信じていたというか。

岡戸 期待していた。これだけ共有している所があれば、合うんじゃないかなって確かに来たけど、確かめる前に違う情報ばかり入ってきちゃう。

シユ 完全に怒ってる表情とかもありましたね。

CD でも、可愛かったのはやっぱりあそこ。ポニーテールを外すところ。

宮原 何をやっても綺麗に可愛く映るから内容とのギャップが面白かったです。

シユ カズヒデとはハッピーエンドだったんですかね。

岡戸 そこはもう…丸裸にされたから上手くいったのか、それとも気まずいままだったのか。

宮原 どっちなんですかね（笑）

シユ 河原に行くまでの二人を想像するとちょっと面白いですね。

宮原 そもそも花火大会が中止になつますから（笑）

岡戸 二人は何をしに行つたんだと（笑）

宮原 あれはやっぱり二人の心象風景です。指定のロケ地を入れるって考えた時、二人の心象風景に近いシーンを、象徴的な所で撮りたいなと思いました。宮ヶ瀬ダムで気まずそうにしている二人とか、色々な場所で気ますようにしている二人を撮りたかったんですけど、時間が無かった。

シユ このシーン、後ろを歩いている人がいい感じです。

宮原 シュールですよね。カズヒデの後ろから出てくる感じが、魂が抜けるみたいでいいなあと思いました。

岡戸 バーベキューをした後もあつたり。

現場でもちょうどバーベキュー上がる若者たちとすれ違つたので、マユミたちが本当にこらへんでやつたのかもしれないなと（笑）



「何をやつても綺麗に可愛く映るから内容とのギャップが面白かったです」